

教育目標

- げんきな子
- よくかんがえる子
- なかよくする子

2月園だより

令和3年1月29日

January 29, 2021

園長 河合 晴美

Principal

Harumi Kawai

体験することの意味

園長 河合 晴美

冬の自然は子どもたちにとって、とても魅力的です。明朝、冷え込むことが分ると、教員がたらいに水を張りました。そして、翌朝透明のきれいな氷ができました。

5歳児が見つけた氷に、他学年も気が付きました。好奇心いっぱいに関わり手に乗せていく3歳児、池の氷を取り出しては、割ることが面白い4歳児、初めての氷に対し、幼児それぞれが様々に関わっていきました。特に、「冷たい、冷たい」と言いながらも4、5歳児に負けずに氷を集め続ける3歳児の姿が印象的でした。

子どもたちは、冷たい氷に触れながら「厚い」「ガラスみたい(に薄い)」と言いながら太陽にかざしてみたり、氷越しに友達の顔をのぞき込んだりしていました。「これ、大きい」と喜ぶ姿に「四角になっているよ・・・」「三角もあった」と形に注目する姿もありました。また「お月様みたい・・・」「(小さくなったものを)ダイヤモンド!」と形から想像した見立てを楽しむ声も聞かれました。たくさん集めている4歳児が、プラスチックの空容器を持ち出し、中に氷を入れました。それを見ていた3歳児も同じように空容器に入れ始めると、カタコトと音が鳴ることに気が付きました。そして、以前行ったマラカス作りを思い出し、振って楽しむ姿になりました。

一日の中の一場面ですが、幼児は、諸感覚を十分に使い、働かせながら体験を楽しんでいます。そのような中で、ものごとを捉え、試行錯誤しながら思いを巡らせています。このような体験は、次につながる「ものの見方や考え方」になります。これは、映像や擬似体験とも異なる貴重な体験です。周囲にいる異年齢を含む友達の言葉や動きもあり、この出来事がさらに豊かな体験となっています。子どもたちにとって、楽しさを伴った忘れられない出来事になったと思います。

立春を迎えると春の足音が聞こえてきます。身近な出来事に敏感に反応する子どもたちにとって、また、心豊かになる体験がたくさんあることと思います。前日の節分では、今年は、より元気いっぱいに豆をまき、子どもたちや皆様の健康を祈りたいと思います。



<池に氷発見!>



<おそろおそろ氷を取ってみました>



<きれい!冷たい!・・・>

